

# 5月田植えと1株3～4本植えて良質茎を!!

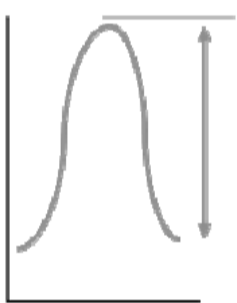
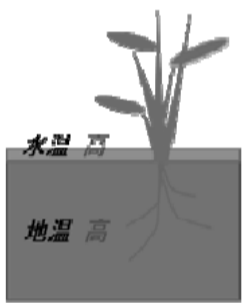
## 【田植え・初期管理のポイント】

5

- ① 植え付け株数・・・60株/坪（高地力田・倒伏田では50株/坪）
- ② 植え付け本数・・・3～4本/1株（1～2本植えても補植はしない）
- ③ 植え付け深さ・・・2cm程度（深植えは十分な分けつが確保できません）
- ④ 田植後はすみやかに入水!! 活着までは5～10cm程度の深水管理で植傷みを防ぐ
- ⑤ 活着したら2～3cmの浅水管理（低温・強風時は深水）で、地温を上げ、稲を元気にしよう。
- ⑥ 水を入れるのは早朝か夕方。昼間は水温と地温の上昇に努めましょう。
- ⑦ 5月中下旬の温暖な日に水を落とし、軽い田干し（ガス抜き）を2～3回繰り返しましょう。

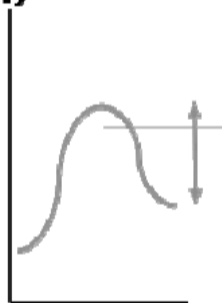
**Point!** 分けつ発生を促進するには、日較差をつくること!  
浅水管理の実施により、昼夜の地温、水温の温度差が大きくなります。

◎浅水（2～3cm）



日較差:大  
促進効果:大  
↓  
分けつ形成 早

深水（10cm）



日較差:小  
促進効果:小  
↓  
分けつ形成 遅

## 【初・中期害虫、葉いもち等の防除（箱施薬剤）】

※JA育苗センターからの購入苗で、箱施薬剤（ファーストオリゼプリンス粒剤6）散布済み苗を購入された方は、箱剤散布は必要ありません!!

薬剤名	使用量	使用時期	対象病虫害
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期～ 移植当日	イネズゾウムシ・イネドロオイムシ いもち病・_____
ブイゲットフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期～ 移植当日	イネズゾウムシ・イネドロオイムシ いもち病・_____

- ※ 水稻ハウスで野菜を栽培する場合は、ハウス内での散布は避けて、田植え前に圃場周辺で散布しましょう。
- ※ 散布量が少ないと十分な効果が得られないので、規定の散布量を守りましょう。
- ※ 箱施薬剤が葉や茎に付着していると、薬害を起こす場合があるので、散布後は軽く払い落してから散水し、薬剤を床土におちつかせましょう。

農作業時は安全に配慮し、事故のないよう十分気をつけましょう!

生産履歴とGAPを的確に記帳しましょう!

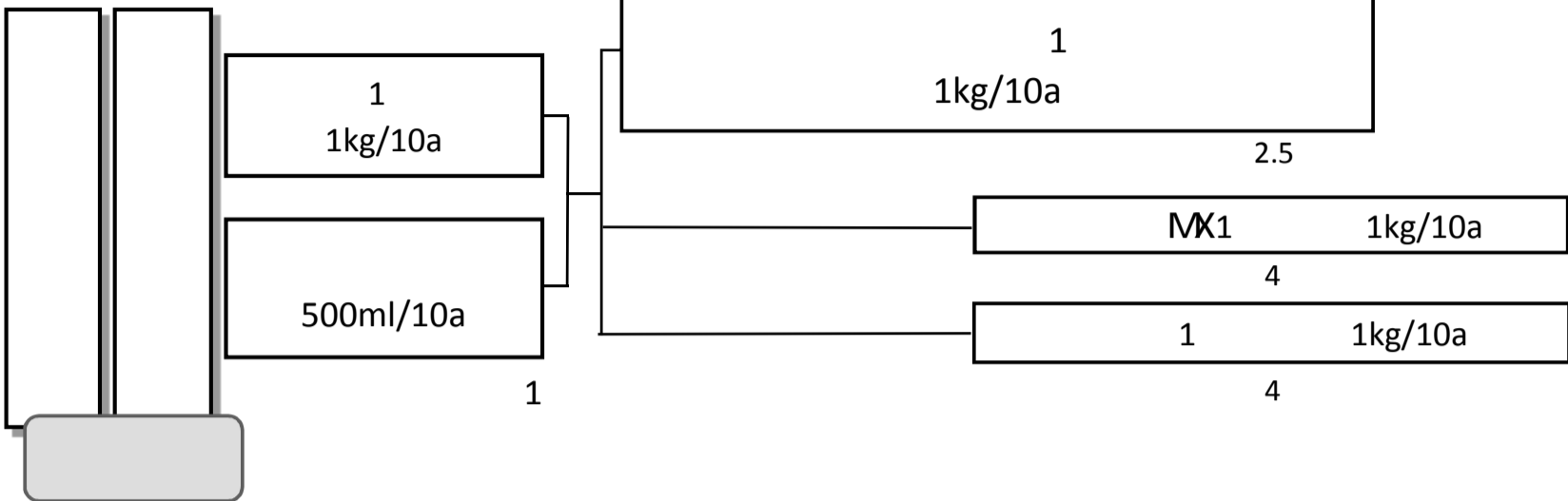
浅水で代かきし、田植え前に濁り水を排水しないようにしましょう!

機械作業時は過信せず、安全確認を十分に！

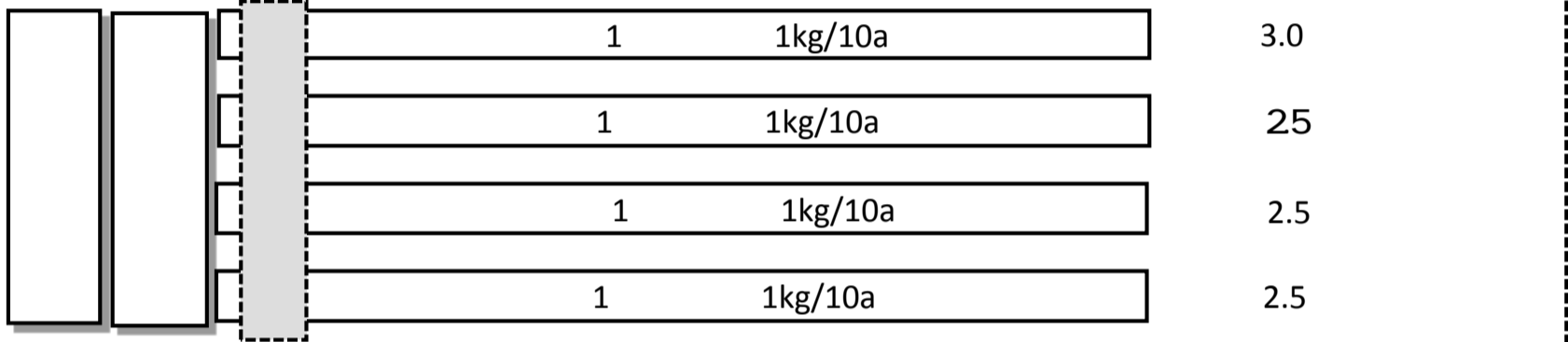
※除草剤散布後7日間は湛水状態を保ち、落水・かけ流しはしない!!

※下記の表は散布適期です。(登録内容ではありません)

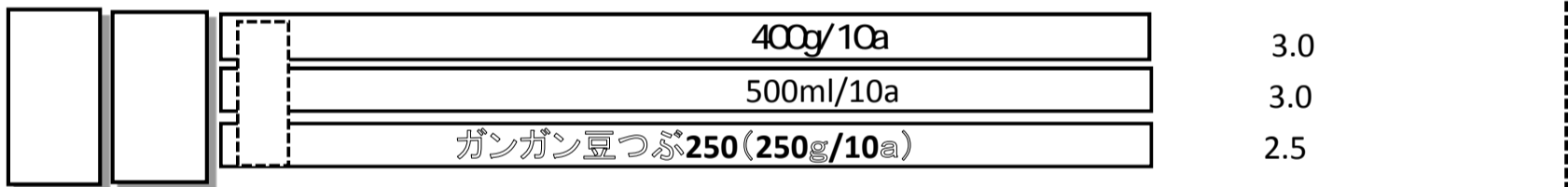
田植後日数 0 5 10 15 20 25 30



田植後日数 0 5 10 15 20



田植後日数 0 1 5 10 15



※深水で散布して下さい。また藻類・表層はく離の発生している圃場では使用しない。

【田植同時散布の注意点】

風の強い日は田植えを控える

すみやかに入水

【除草剤使用上の留意点】

田植え前の初期剤散布はしないで下さい。根から薬害が起きる可能性があります。

水深5cm以上を保ち 藻類の発生前

m  
SM1

倉庫でのネズミ防除のポイントは清掃の徹底！（駆除剤は絶対に使用しない）

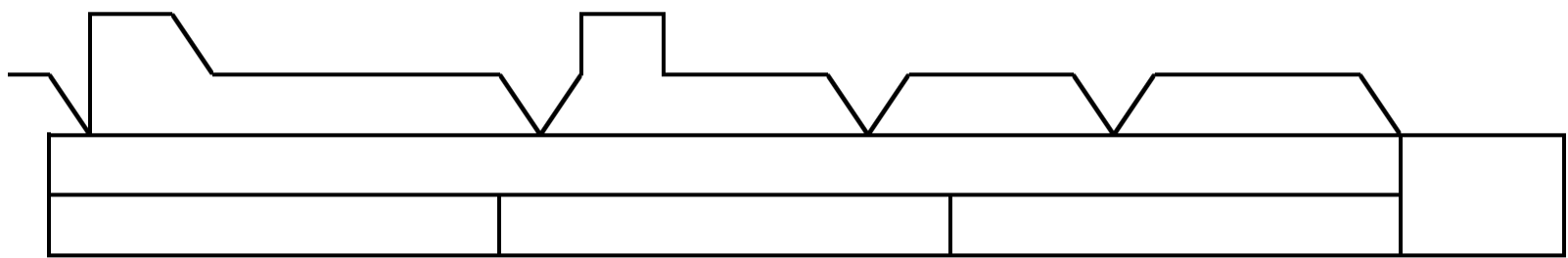
# 適切な初期管理は良質米への第一歩！！

## 【田植え後の水管理】

適切な管理により、初期生育の確保・健全な稲体の育成に努めましょう！

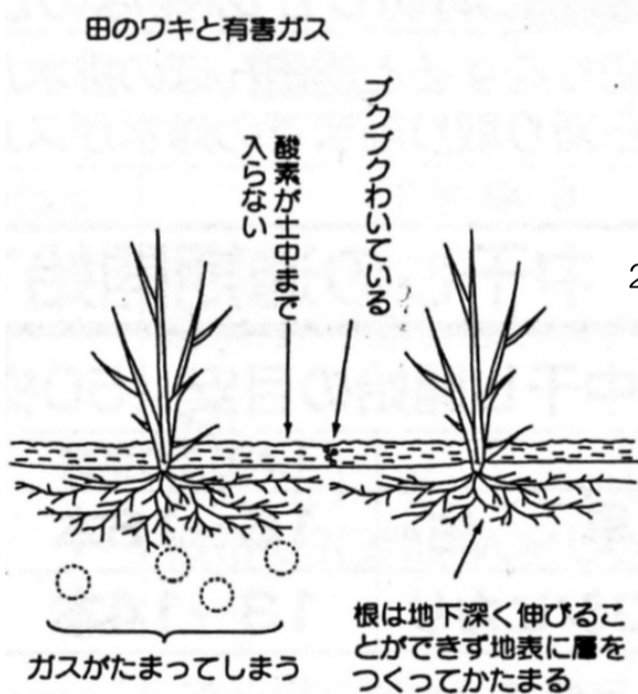
3 5  
5 10cm

2 3cm

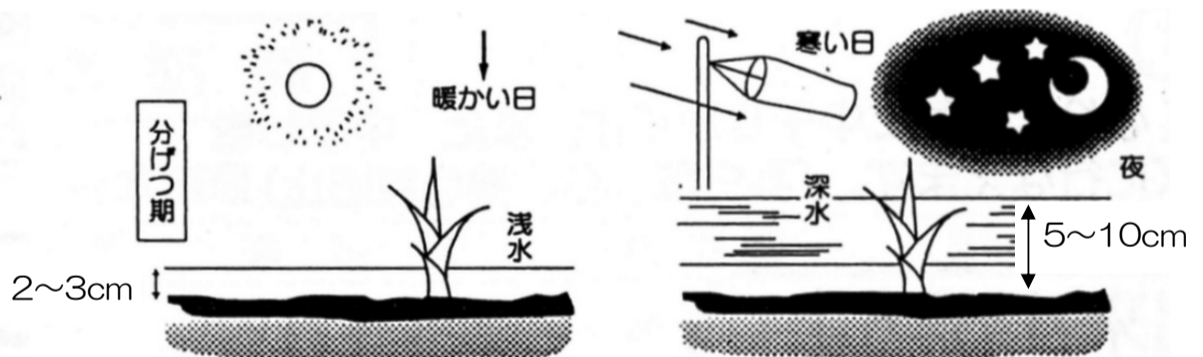


### 溝切り

#### ガスの発生

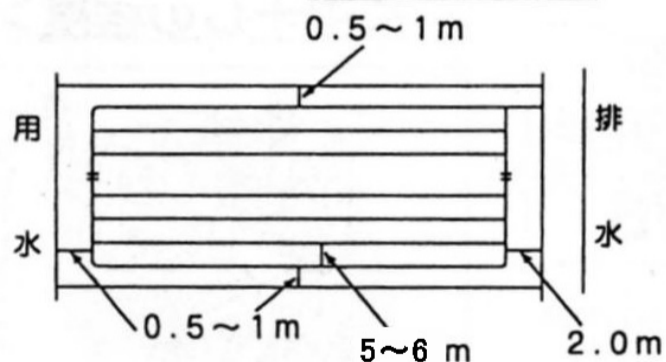


#### 天候に応じた水管理の実施



#### 溝切りの例

#### 平坦地の場合



#### ※ガス抜きについて

中干しは、田植え一ヶ月後を目安に開始しましょう！

くわしいことは、営農指導員にお尋ねください。

補植苗の放置は葉いもちの発生源となりますので、早急に処分しましょう！